

令和6年度 福井県立道守高等学校学校関係者評価書(定時制)

(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。 ・成果と課題を踏まえた改善策・向上策が適切かどうか。 ・その他							
(ご意見をお聴きした方々) <table border="0"> <tr> <td>・福井県立道守高等学校教育振興会</td><td>会長 鈴木 宏治 氏</td></tr> <tr> <td>・福井県立道守高等学校福信会</td><td>会長 服部 悟 氏</td></tr> <tr> <td>・福井県立道守高等学校育友会</td><td>会長 柳生 英俊 氏</td></tr> </table>		・福井県立道守高等学校教育振興会	会長 鈴木 宏治 氏	・福井県立道守高等学校福信会	会長 服部 悟 氏	・福井県立道守高等学校育友会	会長 柳生 英俊 氏
・福井県立道守高等学校教育振興会	会長 鈴木 宏治 氏						
・福井県立道守高等学校福信会	会長 服部 悟 氏						
・福井県立道守高等学校育友会	会長 柳生 英俊 氏						
(ご意見欄) ○教育課程・学習支援 ・意欲的に学習に取り組めなかった生徒が17人(10%)います。この生徒の理由を把握することで、この数字が下がり幅を改善できるのではないのでしょうか。 ・意欲的に学習に取り組めたかという質問に「どちらかといえばはい」と答えた生徒が50%近くいます。この「どちらかといえば」の部分をもう少し詳しく分析できるとよいと思います。							
○生徒支援 ・生徒の基本的な生活習慣・ルールを理解している生徒が90%超はよかったです。部活動への理解、学校行事への参加が80%超です。部活動への入部を積極的に進めてはいかがでしょうか。							
○進路支援 ・将来の進路を考えることは大事なことです。25%の生徒が進路の話を先生や保護者としていない理由は何でしょうか。自分の適性をわかっていないため、言葉にできないからではないのでしょうか。 ・高校生全体の数が減少している中、定時制生徒は変わらないか、むしろ増加の状況にある。定時制のニーズが高まっている中、ふくい若者サポートステーションなどの外部機関と連携した切れ目ない進路支援等、さらなる充実をお願いしたいです。							
○ICTの活用 ・これからの時代、ICTの活用は欠かせないと思います。これからも一人一人に理解を深める授業になりますようお願いしています。 ・欠席連絡等で、ICTが活用されており、学校と保護者双方にとってよいシステムになっていると思います。							
○読書活動の推進 ・図書の利用、図書室の利用はある程度時間的余裕が必要かと思ひます。生徒の半数が興味を示しているのは良いと思ひます。 ・紙媒体だけでなく、デジタル媒体の利用した読書、また漫画やアニメを含めた活字に接する機会を増やすなど、多様な「読書」を進めてみてはいかがでしょうか。							
○心身の健康管理 ・生徒のほとんどが健康管理を心掛けているのは日ごろの先生方のご指導のおかげですね。清掃活動は社会に出てからも大切な行いの一つだと思ひます。							
○メンタルケアの充実 ・悩みを持った生徒対応は難しい問題だと思ひます。その中で、先生・生徒・保護者の理解、対応が90%を越しているのは立派だと思ひます。							
○連携 ・学校からの情報が保護者に伝わり理解されているのは、ITの時代でも学校からの配布物が生きているためと思ひます。これからのデジタルだけでなく、場合によっては紙での提供もお願いします。 ・学校からの「お便り」を学校ホームページに掲載することも検討してください。							
○全体(総括) ・全体的に前年の評価より良くなっていると思ひます。学校の取り組み、先生方の努力のおかげです。これからのよろしくをお願いします。 ・在校生に対して、きめ細やかな指導をしていただいていることに満足しています。可能であれば、途中退学していく生徒たちにも、社会と繋がり続ける支援をしていただけると嬉しいです。							
○学校関係者評価を踏まえた今後について ・今回いただいた各委員からのご意見やご指摘を真摯に受けとめ、次年度のスクールプランや具体的取組みの設定に生かしていきます。緊急時の対応策として、また個別最適な学びを充実させるために、タブレット端末を活用したオンライン授業などの研究、授業での活用に取り組んでいきます。 ・生徒たちがよりよい学校生活が送れるよう保護者や外部機関の方々と連携して、学校教育に取り組んでいきます。							